

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月13日更新

事務事業名		パーク&ライド駐車場運営事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	政策部	課長名	中村 誓丞
	施策	4	公共交通の充実			所属課	企画課	担当者名	坂井 竹志
	基本事業	12	公共交通の連携による利便性の向上			所属班	政策企画班	(内線)	1252
予算科目		会計一般	款 2	項 1	目 11	事業連番 11468	法令根拠	成果優先度評価結果	⑧
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 22年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 21 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	国道3号熊本北バイパス高架下の新須屋駅に隣接して整備したパーク&ライド駐車場を運営・維持管理する事業。整備規模は、アスファルト舗装約2,300㎡、収容台数72台、施設内照明設備を有し、平成21年7月より合志市地域公共交通計画に基づく実証実験として運用を開始した。北バイパス新須屋駅周辺は、合志市総合計画にある交通結節点強化事業のひとつとして位置づけられ、熊本都市圏都市交通アクションプログラムにおいても交通結節点としての機能強化が謳われている。平成20年3月の国道3号熊本北バイパスの供用開始にあわせ、平成19年8月に熊本電鉄が新須屋駅を北バイパス高架下へ移設した。国道3号熊本北バイパスの全線開通と路線バス運行や本市公共交通事業が本格化することにより、さらに南部の交通結節点として重要性が高まると考えられ、駅利用者の利便性向上とエコ通勤、交通渋滞緩和を目的として本駐車場を整備した。
【業務の流れ】	施設の運営・維持管理と利用啓発活動を行なう業務である。
【主な予算費目】	特になし。
【意見や要望】	周辺住民から駐車場として利用できないかという問い合わせがあった。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)	23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
・熊本電鉄による施設の運営、維持管理 ・市広報紙への利用啓発記事掲載 ・ホームページへのお知らせ掲載	・熊本電鉄による施設の運営、維持管理 ・市広報紙への利用啓発記事掲載 ・ホームページへの動画掲載による利用啓発
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 協議と啓発活動の回数	回 熊本電鉄による維持管理を、平成23年度までに延長したことによる駐車場照明に係る電気代の減
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
パーク&ライド駐車場	→ ア: 利用者数 人
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
電車の利用がしやすくなる。	→ ア: P & Rの利用率 %
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠	
・P & R利用率が向上することは、電車が利用しやすくなる意図の向上に結びつくため ・平成22年3月31日での利用率は約13%、平成22年12月31日では約30%であるので、平成23年度は利用率50%である36台を目標値とした。	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込
① 活動指標	ア	回	0	0	20	5	20	20	20
	イ								
	イ								
② 対象指標	ア	人	0	0	36	26	36	72	72
	イ								
③ 成果指標	ア	%	0	0	50	36	50	100	100
	イ								
投資入費量	事業内訳	国庫支出金	千円						
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		繰入金	千円						
	(A) 事業費計	一般財源	千円			320			
		(A) 事業費計	千円	0	0	320	0	0	0
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	0	0	199	37	37	37
人件費	正規職員従事人数	人	0	0	2	2	2	2	
延べ業務時間	時間	0	0	50	9	9	9		
総計	総計	千円	0	0	519	37	37	37	
トータルコスト(A)+(B)	トータルコスト	千円	0	0	519	37	37	37	

総トータルコスト  
全体計画  
~ 年度  
  
(期間限定複数年度のみ記載)  
  
0

事務事業名	パーク＆ライド駐車場運営事業	所属部	政策部	所属課	企画課
-------	----------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部（SEE）  
 ＊原則は22年度の実績評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input type="checkbox"/> 達成した 周知啓発の不足が主な原因と思われるが、通勤時間帯の駐車場周辺の交通規制により、御代志・黒石・みずき台・新地（花立）方面からは遠回りになるとも要因として考えられる。	<input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 周知啓発の不足が主な原因と思われるが、通勤時間帯の駐車場周辺の交通規制により、御代志・黒石・みずき台・新地（花立）方面からは遠回りになるとも要因として考えられる。
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 御代志方面からのアクセス路線である須屋線の改良が終わり、朝の交通規制が解除されれば、利用者の増加が見込まれる。	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】 御代志方面からのアクセス路線である須屋線の改良が終わり、朝の交通規制が解除されれば、利用者の増加が見込まれる。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 対象指標である利用者数の増は、成果指標である利用率に直結するので、周知啓発活動をさらに工夫して実施すれば成果の向上余地はある。 例えば契約者紹介制度などロコミを利用した啓発や、1日P&Rを実験的に行うことを検討している。	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 対象指標である利用者数の増は、成果指標である利用率に直結するので、周知啓発活動をさらに工夫して実施すれば成果の向上余地はある。 例えば契約者紹介制度などロコミを利用した啓発や、1日P&Rを実験的に行うことを検討している。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 駐車場の設置については市で行い、管理運営については駅管理者である熊本電鉄が行っており、すでに連携して事業を行なっている。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 事業費がないため削減の余地はない。 ＊平成22年度は施設維持管理を本市で行う予定であったが、実証実験期間である平成23年度までは、熊本電鉄で行うよう調整したため、当初予算全額を減額補正した。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 事業費がないため削減の余地はない。 ＊平成22年度は施設維持管理を本市で行う予定であったが、実証実験期間である平成23年度までは、熊本電鉄で行うよう調整したため、当初予算全額を減額補正した。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最低限に人員・業務時間数により実施している。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 事業については、広く市民より利用者を募っている。 実証実験期間中は月額500円の利用料負担であるが、公の施設として市で管理するようになったときには、維持管理費の状況に応じて利用料の見直しを行う必要がある。	<input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 事業については、広く市民より利用者を募っている。 実証実験期間中は月額500円の利用料負担であるが、公の施設として市で管理するようになったときには、維持管理費の状況に応じて利用料の見直しを行う必要がある。
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 すでに管理運営については、熊本電鉄に委託している。

3 評価結果の総括（SEE） ＊事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

平成22年度当初は10台の契約台数であったが、平成22年12月末現在では22台と着実に増えてきている。現在約30%の契約率であり、目標値の36台（契約率50%）には及ばない状況である。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

<p>(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/>事業のやり方改善（有効性改善）  <input type="checkbox"/>事業のやり方改善（効率性改善） <input checked="" type="checkbox"/>事業のやり方改善（公平性改善）  <input type="checkbox"/>現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）</p> <p>（有効性改善） 契約者紹介制度などロコミを利用した啓発や、1日P&amp;Rを実験的に行うことを検討している。</p> <p>（公平性改善） 実証実験期間中は月額500円の利用料負担であるが、公の施設として市で管理するようになったときには、維持管理費の状況に応じて利用料の見直し・検討を予定している。</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要）</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上	○																				
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策</p> <p>国道387号線からP&amp;R駐車場へのアクセスについては、市道須屋線の朝の交通規制により大変不便であった。平成22年度の須屋線整備に併せ歩道も整備されたため、通学時間帯の交通規制が解除されれば新たな利用者掘り起こしに繋がるものと思われるが、地元区や学校側の意向次第である。</p>																						